

FACULTY OF TRANSDISCIPLINARY ENGINEERING

共創工学部

学部Webサイト
<https://www.ocha.ac.jp/news/20220228.html>



工学と人文学・社会科学の知を協働させ、
 社会と共に未来の環境、文化を創り出す。

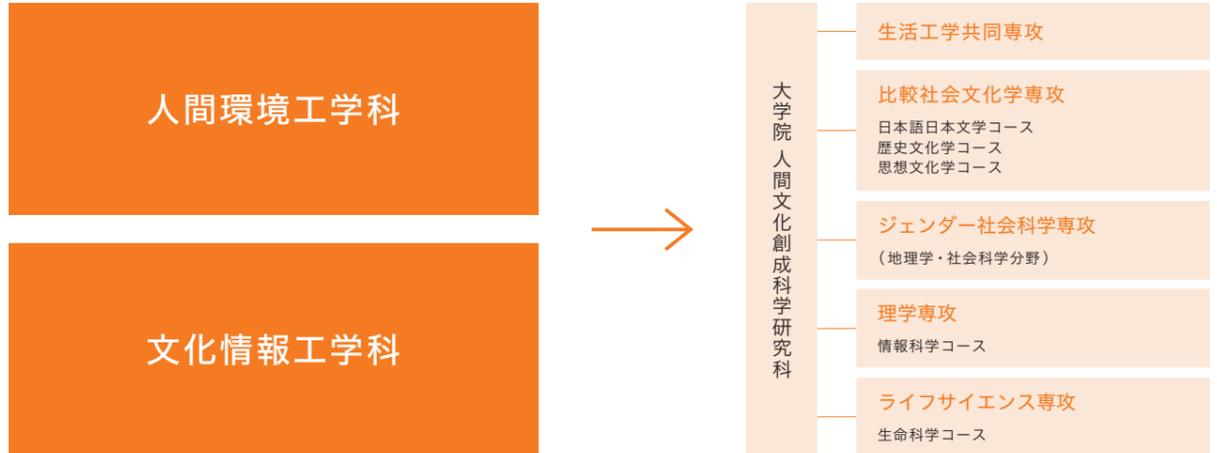
共創工学部は、工学と人文学・社会科学を協働させ新たな技術や文化すなわちモノやコトを考案・創造することを目的とする新しいコンセプトの工学部です。自然科学を基礎とし、社会と対話しながら新しい技術を実装・普及する人間環境工学科と、データサイエンスの手法を活用し、人文学・社会科学と工学を協働させて新しい文化や価値を創り出す文化情報工学科の2学科で構成されます。社会における課題を解決し、社会・文化のイノベーションを目指して、工学設計やデータサイエンス等の技能を習得するプログラムだけでなく、課題を発見し解決策を考案する力、それを具体化させ、かつ社会との対話を通じて普及させる力を涵養するプログラムを備えています。また一級建築士、二級建築士の受験資格、博物館学芸員、GIS学術士、地域調査士の資格取得に必要なカリキュラムも用意しています。

社会と共に未来を創る、また工学に文系の知恵を併せて共に新しい技術や文化を創る、それが「共創工学部」の理念です。

※学部・学科名称は仮称、開設時期は予定です。
 ※現在、設置申請中であり、変更が生じる可能性があります。



共創工学部から進学が想定される大学院専攻課程（大学院の改編などがある場合、変更します）



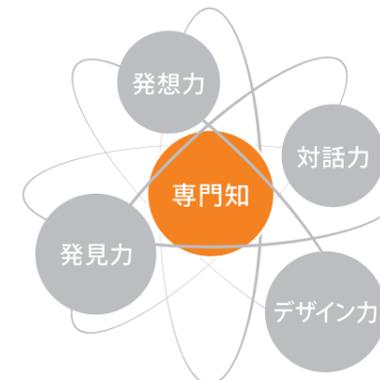
共創工学部の特徴

共創工学部の設立目的

テクノロジーは私たちの社会や文化に欠かせないものとなり、未来の創造に大きな役割を果たします。環境をはじめ、テクノロジーが取り組む課題には人文学や社会科学からの視点の重要性が増えています。共創工学部には、工学と人文学・社会科学の知が協働し、共に未来の環境、社会、文化を創るという意味が込められています。また、協働を進める上で大きな役割を果たすのがデータサイエンスです。ここで学んだ学生が将来、さまざまな垣根を越え、多様な人々を巻き込み、新たな意味や価値を創造していくことが共創工学部の狙いです。

共創工学と従来の工学との違い

これまでの多くの工学では分野ごとに最先端の技術を進化させ極めることで豊かな生活の実現に寄与してきました。一方でこれからの未来社会の創造には生活者の多様性を考慮し、かつ持続性をもつ社会の実現が求められます。そのためには専門的な知識（専門知）が必要なのはもちろんですが、社会的な課題を発見し（発見力）、解決策を考案する（発想力）だけでなく、それを具現化し（デザイン力）、社会との対話によって（対話力）普及させるための、各能力を備えることが必要です。共創工学ではこれらの能力を涵養するプログラムを備えていることが特徴です。



社会実践力を養う特色ある科目

学部の共通科目として社会実践力を養う科目を用意しています。例えば1、2年次のPBL (Project Based Learning) 科目としてLIDEE (Life Innovation by Design & Engineering Education) 演習がありますが、企業や各分野の専門家を招き、異なるさまざまな課題・テーマを取り上げ、学生と専門家が共に取り組む内容です。見学・実地調査・リサーチを行ったり、グループでアイデア共創に取り組みます。社会実践力として重要な発想法を学び、実行力、リーダーシップ・スキルを実践的に習得することができます。

求める人材は理系も文系も

社会的な課題に対し、設計によってモノを作り、モノを通じて課題を解決し社会を改善していくこと、それが工学です。そのためには社会の知識が必要となります。また共創工学部では、工学に基づいて新しい文化を創り出し、社会を変えていくことができると考えています。新しい文化の創造には、文系の知識が必要となります。理系はもちろん、文系を志す方々にも活躍が期待される、それが共創工学部が独自に打ち出す新しい理念なのです。例えば、文化情報工学科では一般選抜入試の個別試験（前期日程）において数学を選ばない受験が可能で、理系にも文系にも門戸を開き、広く人材を求めている学部です。

人間環境工学科

人間環境工学科は、人間と社会に密接にかかわる課題として、人の生活・医療・健康をまもる「人間領域」、建築や都市・インフラなど安全に関わる「環境領域」、生活材料や医療で利用される材料の開発に資する「マテリアル領域」の3領域を扱います。各領域でモノや仕組みを工学的に設計するために不可欠な工学専門知と、社会に実装・普及するために必要な社会科学知の協働により、持続可能な社会の構築に向けたイノベーションを目指しています。

文化情報工学科

文化情報工学科は、人文知に工学を協働させることにより生み出される人間の文化を尊重する新しいタイプの工学です。情報・工学技術を用いて、文学、言葉、芸術、歴史、地理、思想などに関する多種多様な情報をデジタル化（収集・生成・可視）し、分析を行い、新たな作品や価値を創出します。工学と人文学の双方が学べる学科です。